



命を救う。命をつなぐ。
CHIKAMORI
HEALTHCARE GROUP
近森病院

近森病院からの ホットライン

2025.3 Vol.253

発行：近森病院 地域医療連携センター



stryker 1788

腹腔鏡システム導入



より高度ながん治療へ

このたび、当院では最新の内視鏡技術を活用した外科手術の精度向上を目的として、2024年2月に stryker1788 腹腔鏡システムを導入いたしました。これにより、従来の腹腔鏡下手術に比べて、より鮮明な画像と高精度な術中評価が可能となり、患者さんへの低侵襲かつ安全な治療の提供が実現されます。



消化器外科
主任部長 塚田 暁

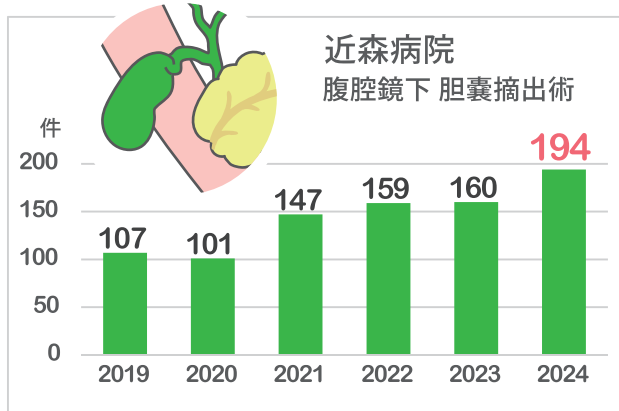
特に胆道疾患や消化器がんの手術で より診療精度の向上を図る



この stryker1788 腹腔鏡システムはその高解像度カメラ技術と高度な光学フィルタリング機能により、手術中の視野をより明瞭に保つことができます。これにより、より正確な病変の切除が可能となり、術後の合併症リスクの低減にも寄与します。特に胆道疾患や消化器がんの手術において、術中ナビゲーションの向上が期待されております。

本システムは 4K 画質に対応し、大型モニターを採用することで、より鮮明で見やすい手術映像を提供します。これにより、術者だけでなく助手や手術室スタッフ全員が正確な視認性を確保し、より安全でスムーズな手術の進行が可能となります。特に微細な血管や神経の識別が容易になり、合併症リスクの軽減に貢献すると期待されます。

この 4K 技術の利点は、従来の HD 画質と比較してより詳細な解剖学的構造を把握できることにあります。術中に微細な異常を発見しやすくなるため、診断精度の向上にも寄与します。また、大型モニターを活用することで、手術チーム全体が同じ視野を共有しやすくなり、コミュニケーションの向上にも繋がります。



一部 画像提供：日本ストライカー株式会社



患者紹介 WEB 予約システム ぜひご利用ください。
お問合せは 地域医療連携センターへ 088-822-5231 (代)

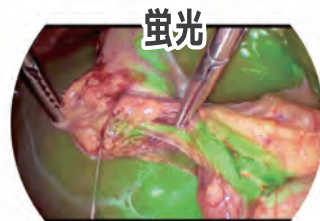


ご利用ガイドは
こちらから



より**精度**が高く より**安全な**手技へ

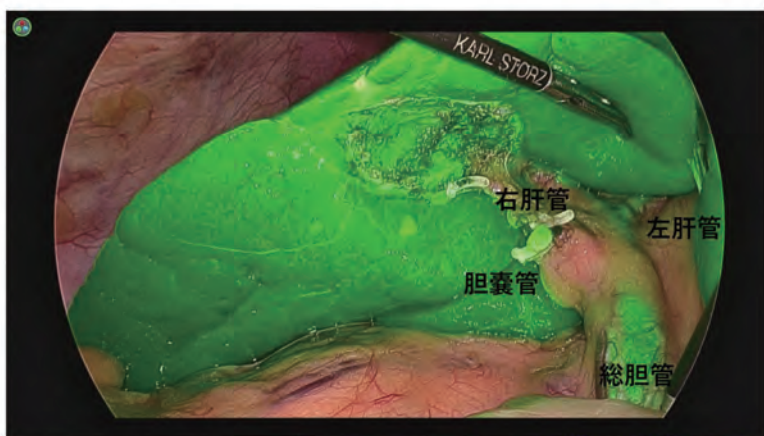
本システムは腸管などの組織を覆う薄い膜や微細な神経・血管をより鮮明に描出することが可能であり、多彩な視覚情報を執刀医に提供し、精度の高い適切な手技へとつなげます。より鮮やかな蛍光モードと白色光モードを重ねて描出することが可能となり、周辺組織の損傷や縫合不全などの合併症リスクを低減することも期待できます。



実際の活用法

本システムの特徴の一つとして、ICG（インドシアニンググリーン）蛍光イメージングを活用した胆道造影に対応している点が挙げられます。これにより、胆嚢摘出術の際に胆管の解剖をリアルタイムで視覚化することが可能となり、解剖学的変異や胆管損傷のリスクを軽減できます。当院におきましても、腹腔鏡下胆嚢摘出術において本機能を積極的に活用し、より安全で確実な手術を実施しております。

また、ICG 蛍光イメージングは血流評価にも活用できるため、絞扼性腸閉塞手術時に腸管血流が保たれているかの確認が可能となります。これにより、腸管切除の適応判断をより精密に行うことができ、術後の腸管虚血や壊死のリスクを軽減できます。この技術を活用することで、手術の安全性がさらに向上するとともに、患者さんの回復をよりスムーズに進めることが可能になります。



今後の展望

ICG 蛍光イメージング技術は、今後のがん手術におけるリンパ節同定への応用にも期待されております。現在、ICG 蛍光によるリンパ流の可視化は保険適用外ではありますが、低侵襲で高精度なリンパ節同定を可能にする技術として、術後の転移診断や治療計画の精度向上に寄与するものと考えております。当院では、研究的な観点からもこの技術を活用し、より高度ながん治療へと発展させていく方針です。

ICG 蛍光技術のさらなる活用法として、リンパ管の可視化だけでなく、腫瘍の境界明確化にも有用であると考えられます。これにより、腫瘍周囲の正常組織を温存しつつ、精密な切除が可能となります。今後は学術的な研究とも連携しながら、より実践的な手術法の確立を進めてまいります。



消化器外科・一般外科

	月	火	水	木	金
午後	八木 外科 消化器外科	坪井 外科 消化器外科	坪井 外科 消化器外科		塚田 外科 消化器外科 肝胆膵外科
		塚田 外科 消化器外科 肝胆膵外科	八木 外科 消化器外科		

最後に

stryker1788 腹腔鏡システムの導入により、これまで以上に患者さんの安全と術後の QOL 向上に貢献できるものと確信しております。今後も最新技術を取り入れながら、地域医療の発展に尽力してまいります。